



TITLE:

<記事>6.研究報告抄録

AUTHOR(S):

---

CITATION:

<記事>6.研究報告抄録. 瀬戸臨海実験所年報 2003, 16: 16-16

ISSUE DATE:

2003-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/179018>

RIGHT:

## 6. 研究報告抄録

瀬戸臨海実験所研究報告 (Publications of the Seto Marine Biological Laboratory) 第39巻第4/6号が、2003年3月31日に発行された。掲載論文3編、総頁数124頁。

39巻第4/6号 (2003年3月)

論文 1. Chavtur, V.G. & Stovbun, G.G.: Revision of pelagic ostracods of the subfamily Archiconchoecinae. [一・一: アーキコンケシア亜科の浮遊性貝形虫類の改訂]. これまでアーキコンケシア属のみから構成されていた浮遊性貝形虫類のアーキコンケシア亜科について、7属と2亜属に細分化した。6新属・1新亜属・7新種を記載し、また既知の2種を再記載して、全種について詳細なシノニムリストと分布記録を掲げ、全タクサの検索表を作成した。(139-219頁)

論文 2. Genzano, G.N. & Kubota, S.: Synchronous mass release of mature medusae from the hydroid *Halocordyle disticha* (Hydrozoa, Halocordylidae) and experimental induction of different timing by light changes. [一・久保田信: ハネウミヒドラ (ヒドロ虫類、ハネウミヒドラ科) の成熟クラゲのポリプからの同調的な大量遊離とその遊離タイミングの光調整による変更の誘導]. ハネウミヒドラの成熟クラゲが、同調して大量遊離するタイミングについて、和歌山県白浜産の材料で、水族館の水槽を用い、ほぼ自然条件下で観察実験した。その結果、日の入りの光量激減と並行したクラゲの大量遊離が起こった。また、人工的に日の入り時刻を早めたり延長したりすることで、その遊離の開始や終了が変更できた。配偶子の放出はクラゲの遊離とほぼ同時におこることから、成熟クラゲの同時大量遊離は、受精の成功率を最大にするための機構であると推察された。(221-228頁)

論文 3. Hiwatari, T.: Taxonomic studies on *Hyale* (Crustacea, Amphipoda, Hyalidae) from the coast of Japan and adjacent waters. [樋渡武彦: 日本沿岸およびその近隣海域産のモクズヨコエビ属 (甲殻類、端脚類、モクズヨコエビ科) の分類学的研究]. 日本沿岸およびその近隣海域産のモクズヨコエビ属について、5新種・2日本新記録種を記載すると共に、1種をタイプ標本に基づき再記載した。これにより、日本からこれまでに、計15種のモクズヨコエビ属が記録されたことになった。また、日本産本属の検索表を作成した。(229-262頁)

(編集委員会)